

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25381206

研究課題名(和文) ヨハネス・イッテンの芸術教育上の思索がその後に与えた影響と教育的意義に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Influence and the Educational Significance of Johannes Itten's Art Educational Thinking

研究代表者

金子 宜正 (Yoshimasa, Kaneko)

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・教授

研究者番号：20263965

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ヨハネス・イッテン及びイッテンの影響を受けた人物が遺した著述や資料の研究調査を行った。併せて、バウハウスをはじめ、イッテンの周辺にみられた教育活動にかかわる研究調査を進めた。本研究調査を通して、イッテンの教育方法や哲学的な思索を深める姿勢などが、イッテンの影響を受けた人物にもみられ、イッテン教育からの影響がみえてきた。

研究成果の概要(英文)：In this research, I investigated into the materials of Johannes Itten, and the publications and Nachlass of the peoples who were influenced by Itten. Then I also provided the research on Bauhaus and the educational movements around Itten at that time. Based on these research, I treated the Influence of Itten and his educational significance through the people who took over his educational methods, philosophical thinking.

研究分野：美術教育学

キーワード：ヨハネス・イッテン イッテン・シュレー バウハウス

1. 研究開始当初の背景

ヨハネス・イッテン(Johannes Itten, 1888-1967)に関する国内外の研究は、イッテン及びバウハウス(Bauhaus, 1919-1933)にかかわる近年の国際的な展覧会を通して、様々な角度から研究が進められ、展覧会図録や関連研究書籍にその成果が纏められてきた。

研究代表者は、これまでヨハネス・イッテンの芸術教育と日本とのかかわりを中心に研究を進めてきた。ベルリンでイッテンが主宰していたイッテン・シューレ(Itten-Schule, 1926-1934)において、竹久夢二(1884-1934)や水越松南(1888-1985)がどのような墨絵教授を行ったかを明らかにするとともに、イッテン・シューレで学んだ山室光子(1911-1999)や笹川(旧姓: 今井)和子(1910-2001)がイッテン教育の日本への受容に貢献していたことを解明した。

また、イッテン・シューレで夢二から墨絵を学んだ学生の一人、エヴァ・プラウト(Eva Plaut, 1915-2009)が日本でイッテン教育の講習を行ったことを明らかにし、プラウトへの聞き取り調査をもとに、イッテンの芸術教育の特質について論じた。さらに、山室・笹川、プラウトと同時期にイッテン・シューレで学んだ学生の一人、ボリス・クライント(Boris Kleint, 1903-1996)が戦後ドイツのザールブリュッケン国立美術工芸学校(Staatliche Schule fuer Kunst und Handwerk-Saarbruecken, 1946-1959)で行った芸術教育について分析するとともに、同時期に在籍したイッテン・シューレの学生たちを取り上げ、イッテンの芸術教育における課題相互のつながりなどの特徴について研究を進めた。

一方、イッテンの日記帳への記述などにみられるイッテンの様々な研究の一端を分析し、イッテンの日頃の探究とイッテン・シューレにおける教育実践とのかかわりについて論じた。また、山室・笹川と交流のあったイッテン・シューレの学生、エヴァ・カイザー(Eve Kayser, 1914-1979)とルート・カイザー(Ruth Kayser, 1916-1993)姉妹の父親で、音楽理論家として知られるハンス・カイザー(Hans Kayser, 1891-1964)とイッテンとのかかわりについて言及してきた。

かつて研究代表者は、イッテンをはじめとして、バウハウスの芸術教育に対比的な思考や対極的な概念がみられることを指摘したが、この一連のイッテン研究の中で、実際の教育実践におけるプロセスに対比・対極の考え方を活かすことによる教育的な効果について論じた。こうした研究を通して、芸術教育の方法に着目するだけでなく、その根底にある教育上の考え方や世界観を導き出し、それを教育に活かす方向性を探るよう、研究を進めてきた。

これまでの研究では、イッテンの芸術教育に関する資料についての研究調査とともに、

日本や日本人とのかかわりのある教え子など、ベルリンのイッテン・シューレで学んだ人物を中心に研究調査を進めてきた。このことをふまえ、ベルリン時代以外の教え子やイッテンの影響を受けた人物まで研究調査の対象範囲を広げ、これまでの研究で得た資料と比較検討することにより、新たに見えてくるイッテン教育の意義を探りたいと考えた。

2. 研究の目的

前述した通り、研究代表者はこれまでも日本とのかかわりを持つイッテンの教え子への調査を主として行っており、その成果をいくつかの論文に纏めてきた。本研究では、日本とのかかわりという枠組みにはこだわらず、また、イッテンの活躍時期を問わずに、彼の教え子やその影響を受けた人物にかかわる資料の調査を行うこととした。

本研究を通して、イッテンの影響を受けた人物や教え子の新たな資料に光をあてるとともに、それらの資料の分析を通して、イッテンの芸術教育上の思索や考え方が彼らに与えた影響を探り、イッテンの芸術教育の教育的な意義についての研究を深めることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、資料の所在がわかっている人物の資料調査はもとより、所在のわからない人物の資料についても、可能な限り所在を解明しながら調査を進めることとした。博物館や美術館、資料館、図書館などにおける調査、公的なコレクション、個人コレクション、財団所蔵のコレクションなど、様々な所蔵先における資料調査が見込まれた。資料の所在がわからない人物については、現地の関係者やその地域の関連機関等で聞き取り調査を行う中で、所蔵先の紹介を受け、あるいは、過去の研究調査で得た資料にみられた記録を分析など、いくつかのプロセスを経て、資料の所蔵先を確認することができた。

また、本研究で得た資料の分析を進める中で、バウハウスをはじめとして、当時イッテンの周辺にみられた教育活動とのかかわりについても研究調査をする必要があることがわかってきた。そこで、イッテンの教え子や影響を受けた人物に関わる資料調査とともに、当時のイッテン周辺にみられた教育活動に関する資料を保管している資料館等における調査を併せて行った。

日本にもイッテンの教え子やイッテンに影響を受けた人物がいたことから、これらの関連資料についての研究調査を進めた。

4. 研究成果

(1) 欧州等におけるイッテンの教え子などへの影響

前述したように、イッテンの教え子やイッテンに影響を受けた人物に関する資料について、欧州における現地調査を行った。すで

に所在が判明している所蔵先もあったが、所在の手がかりとなる関連する地域での聞き取り調査や関係者からの情報、資料の分析などをもとに、資料の所蔵先を確認した。今回調査できた資料は、ベルリンのイッテン・シュレーにおけるイッテンの教え子だけではなく、ヴァイマル時代やクレーフェルト時代の教え子、イッテンの影響を受けたと思われる人物も含まれる。

これまで積み重ねてきたイッテン研究で得られた知見と今回の調査で発掘調査することのできた資料の内容を比較しながら資料の分析を進めた。イッテンの教え子や影響を受けた人物の中には、墨絵の作品を大切に保管し、墨絵を描くことを好んでいた者や、哲学や芸術思想の書籍に親しみ、その研究を記録に遺していた人物、イッテンから学んだ教育について日記や記録などに遺していた人物がいた。その中には、自分の教育活動の記録を遺していた人物もいた。これらを通して、イッテンの教え子や影響を受けた人物には、イッテンの教育上の考え方や教育方法などの影響がみられたばかりではなく、イッテンの探究、哲学的な思索につながるような研究姿勢が受け継がれていたことが窺えた。

欧州で新たに出版された複数の研究書籍(2015年、2017年)に、研究代表者によるイッテン研究の論文が取り上げられた。以前と比べて、欧州の研究者との研究交流の際に、ベルリンのイッテン・シュレーの教育に関する意見を求められることも増え、国際的な研究交流が深まってきた。かつてイッテン・シュレーは、その一端が知られるのみであったが、近年立体的に研究が進んできた。さらに、バウハウス創立100周年を迎える2019年に向けて、2016年以降、国際的な研究交流がこれまで以上に活発になった。この機会に、海外からの問い合わせもあり、イッテンの日本への影響について纏めることとなった。これは、2019年に出版される予定である。また、この研究の期間中に、美術教育雑誌の編集者からの依頼があり、本研究ともかかわりのある内容を含む書籍についての書評(文献紹介)を執筆した。

(2) イッテン教育と日本の構成教育運動とのかかわり

すでに研究代表者が明らかにしたように、イッテン教育の日本への受容には、イッテンの教え子、山室・笹川が貢献していた。二人は、川喜田煉七郎たちにイッテン・シュレーの教育を詳細に報告しており、『構成教育大系』には、山室がイッテン・シュレーで制作した作品や、二人の写真図版が掲載されていた。また、『構成教育大系』には、イッテン・シュレーに由来する図版が数十枚掲載されていたことや、それらの図版がドイツの雑誌

Die Form(『フォルム誌』)に掲載されたイッテンの論考にある図版と同じであったことから、そこから転載されたと考えられる

ことを、研究代表者はすでに論文で指摘してきた。

本研究の一環として、川喜田が編集していた建築工芸雑誌『アイシーオール』の図版を確認したところ、イッテン・シュレーの教育に由来する図版やイッテンの教育内容が同誌に登場するのは、山室・笹川が川喜田にイッテン教育の報告をした後からであった。これには、山室・笹川の報告が影響したものと推察される。特に、イッテン教育でよく知られる、対極的な内容を表現した図版が『アイシーオール』にみられるのも二人の留学報告の後であった。イッテン教育でよく知られるこれらの図版は、『構成教育大系』にも掲載された。『アイシーオール』や『構成教育大系』にみられるイッテン教育の影響は、イッテン・シュレーに由来する図版だけではなく、その内容にも及んでいた。

さらに、本研究を進める過程で、川喜田の構成教育運動とイッテンやバウハウス周辺にみられた教育活動との新たな接点が見つかった。

(3) イッテンの思索や探究をめぐる交流

研究代表者が以前指摘したように、イッテンが1930年にベルリンのイッテン・シュレーから出版した造形芸術書 *Tagebuch von Johannes Itten. Beiträge zu einem Kontrapunkt der bildenden Kunst* ヨハネス・イッテンの日記 - 造形芸術の対位法への寄与 - (以下:『イッテン日記』)に掲載された図版の中には、音楽理論家として知られるハンス・カイザーが撮影した顕微鏡写真があった。これらの顕微鏡写真は、のちに出版されたカイザーの著書にも掲載された。『イッテン日記』には、他にもすでに出版されていたカイザーの著書に由来する図版もあった。イッテンとカイザーは、当時どのような関係であったのか。以前示したように、『イッテン日記』が出版された年には、イッテンとカイザーは直接会って話をする間柄であった。前述したように、カイザーの二人の娘がイッテン・シュレーで学ぶなど、家族との接点もあった。また、イッテンの造形芸術書にカイザーの顕微鏡写真が提供された一方で、カイザーの著書には、イッテンについての記述がみられた。それは、カイザーの調和的な考え方と結びついたものであった。イッテンとカイザーは、互いの研究に示唆を与えあうような関係であったことが推察される。

イッテンの思索や探究は、洋の東西を問わず多岐にわたるものであったが、彼の哲学的ともいえる探究の姿勢は、イッテンの影響を受けた教え子等にも受け継がれていたことが見えてきた。以前指摘したように、イッテンと直接会見する機会を得た日本人、小原國芳や瀧口修造は、イッテンが墨絵の教育的価値を高く評価していたことを伝えていた。本研究で調査したイッテンの教え子にも、墨絵の影響が窺えた。一方、イッテンの芸術教育

にみられる、造形を通して思索していく姿勢も教え子の中に垣間見られた。イッテンの芸術教育にみられる手法を表面的に捉えるのではなく、芸術教育上の思索と結びつけて考えていくことが重要と思われる。そこに美術を通して人間形成を重視していたイッテン教育の本質があると考えられる。今回収集した資料等をもとに、イッテンの芸術教育をそれぞれがどのように受け継ぎ、発展させたのかについて、さらに研究を進めていきたいと考えている。

5．主な発表論文等

〔その他〕(計1件)

金子 宜正、文献紹介 亡命ドイツ人学長達の戦後芸術アカデミー改革 アメリカ・ドイツにおける戦後芸術大学改革の起源と遺産 (鈴木幹雄 / 編著)、教育美術、第76巻第1号(第871号)、2015、p.63

6．研究組織

(1)研究代表者

金子 宜正 (KANEKO, Yoshimasa)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授
研究者番号：20263965

(2)研究分担者

無し

(3)連携研究者

無し

(4)研究協力者

無し